

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



古高取

目次	
古高取の魅力伝える	2
古高取の広場	2
活動の記録	7
なんでも掲示板	9

サンガ

会員の皆様、今年もより多くの人達に古高取の魅力を伝える為の活動を、共に推進してまいりたいと考えています。よろしくお願い致します。

さて、古来より仏教徒になる為の入門の儀式は、まず三宝に皈依する事から始まります。三宝とは仏・法・僧です。これとに僧とは、特定の僧侶の事ではなく「サンガ」といつて僧伽と音写され、和合衆と意識されます。仏陀(仏)の教え(法)を信じる仲間・同朋ということになります。だからサッカーのサンガ京都のチームは坊さんのチームではなく仲間とか集団と言っていいでしょう。

サンガとは、上下の隔てのない同じ仏道を歩く同朋・仲間・同志の和やかな集いであります。

古高取を伝える会の会員は古高取の魅力に引きつけられた仲間・同朋の老若男女の集いです。何故か。「人月を見る」でも良いのですが「月人を見る」と視座を変えた時、皆月光を浴びた衆生ですから・・・。

古高取の窯跡、そして伝世品や発掘された陶片から四百年前の語りかけを時空を超えて、今、私共は縁あって聞かせてもらう座に立っている和合衆なのです。

「感動」感じて動くものだなー。(相田みつを)
いいですねー。

鷹取 宗恵

古高取の魅力を伝える

御挨拶

会長 能間 瀧次

希望に満ちた新春を迎え、古高取を伝える会の皆様におかれましては、心を新たに、一年の計を立てておられることと存じます。

皆様とは、本会の事業にご支援、ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

一昨年3月に本会が発足し、2年が経過しようとしています。

本会活動の重点は、①活動の拠点づくり、②古高取の知識の獲得、③古高取の魅力の啓発、④次世代への継承、の四つの柱です。

昨年、各種事業を企画立案し、皆様のご協力を得て、素晴らしい成果を上げることができたと自負しています。

今後は、各事業の取り組みの深化、充実を図るべく、直方市全体の歴史的、文化的遺産、遺物の価値を見定め、総合的な視点から古高取の魅力を発信していくことが重要だと考えています。

そのためには、各種団体との連携は言うまでもなく、行政、商工会等との関係も今以上に密にしな



がら、古高取を伝える会の存在価値を明確にすることだと思っています。尚、各種事業につきましては、会則第3条にそって、推進していきます。

皆様におかれましては、今後とも、各種事業へのご支援を賜りますとともに、益々のご活躍を記念しまして新年の御挨拶といたします。

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の活動を行なう。

- (1) 古高取に関する資料の収集・研究等の推進
- (2) 関係資料等の発行、市内外への広報、及び啓発活動
- (3) 学校教育との連携による焼き物教室の推進

- (4) 関連団体との連携による焼き物作り体験教室・お茶会の実施
- (5) 古高取に関するシンポジウム、講演会等の実施
- (6) 古高取に関するバーチャル博物館の開設
- (7) 古高取研究施設等を含む陶磁歴史資料館建設の促進
- (8) その他本会目的遂行のための活動

古高取の広場

福智山ダムと内ヶ磯窯跡の水没、そして復元へ

千羽 登

内ヶ磯窯跡は全長46.5mもあり、当時の登り窯としては、最大級のものとされています。おそらく現存していれば、特別史跡か重要文化財に指定されるほどの価値のあるものと思われます。これほどの貴重な史跡を福智山ダムの建設にあたって、文化財保存の観点からどれだけ論議されたのか、わからない。ただ全体をコンクリートで覆い、「ダムの使命が終わるまで」湖底に沈めたということ

は、逆にいかに貴重なものであるかを物語っています。

これほど貴重な文化財を水没させるほどダムは必要だったのでしようか。私は福岡県のホームページで「福智山ダム」を開き、その目的を調べました。それには、

・洪水調節
・既得用水の安定化、河川環境の保全

・水道用水の確保
の3点が挙げられていましたので、担当の県土整備部河川開発課に問い合わせました。



ダム工事の中の内ヶ磯窯跡

問一 ダム造りの要請は主にどんなところからあったのですか。

問二 ダム造りの目的のなかの、特に三番目の水道用水の確保について

①当時、直方市の水道水の水源は、地下水と力丸ダムと遠賀川の3水源から取水していましたが、その時点では、不足がなかったのでしょうか。

②当時、直方市の人口は将来増加に向かうと予測されていたのでしょうか。

問三 当時、すでに日本でも有数の貴重な高取焼内ヶ磯窯跡の存在が知られていましたが、文化財保存の観点から、それを水没させることについて、どんな論議があったのでしょうか。言い換えれば、どんな理由で、ダム建設が優先させられたのでしょうか。（綿密な発掘調査と窯跡がコンクリートで被われていることは論外です）

先ず、問一についての回答はありませんでした。問三については、ダムの必要性については議論の余地はなく、最大限に文化財を尊重する意味で十分な発掘調査をし、その跡を埋め戻し、石で覆った（コンクリートではなく）、と説明され



現在の内ヶ磯窯跡(福智山ダムの湖底に沈む)

ました。問二の①と②については、直方市の浄水課からくわしい回答がありました。要約すると、「①は、昭和54年(1979)当時、市全体の夏場における配水量は取水能力の限界に近い日量約2・5万トン記録しており、取水量不足を心配する状態だった。②は、当時の人口は63,204人だが、将来の人口予測は、郊外宅地化や工場団地誘致などの増加傾向を考慮して、63,000人〜80,000人という予測算定に基づいて、計画給水人口は、72,100人として工事の認可を受けた」とあります。

現在の人口は、2008年末で59,267人なので、13,000人ほど多く予測していたこととなります。次に、ダムができる前とできてからの実際の市の取水量を見てみましょう。

	力丸ダム	遠賀川	福智山ダム	計(万トン)	人口
2003年	147	614		761	60,160人
2008年	134	540	84	758	59,267人

ここで問題なのは、福智山ダムができる前よりもできた後の方が全体の取水量が少ないということ、福智山ダムから取水した分を遠賀川や力丸ダムからの取水を減らしている、と言うことです。そこで「福智山ダムから取水しなくても遠賀川から取水すればいいということになりますか」と尋ねると、「高地の上頓野、畑、永満寺地区へ遠賀川からポンプでくみ上げるよりもダムから流す方が経済的に安くすむ」という回答がありました。ダムの目的全体からすると、いろいろあるでしょうが、水道水の利用という観点からだけという、絶対に必要なものではないという感が強く感じられまし

た。現在、この程度のことと、あの貴重な内ヶ磯窯跡が水没させられているのかと思うと、なんともやりきれない思いが募ります。

「このようなダムですが、今となつては、元に戻すことはできません。そこで、古高取の値打ちを全国に発信するという「伝える会」の意義からして、「窯跡の復元」と言うことは大きな課題です。これは技術的にも、費用の面からも非常に難しい課題と思われませんが、さいわい地形的に窯跡とよく似たところがあるという人もいます。「伝える会」としても、実際に実地調査をする値打ちのあることかもしれません。

陶磁歴史資料館建設について

篠原 義一

広報委員会が十二月十五日にあり、その折、「古高取を伝える会」が主目標の一つに、「活動の拠点をつくる」を掲げている。その実現に向けて運動をすべきではないか。この提案を受けて議論を深めた。あとで述べるように実現は容易ではない。

このことは理解しつつも是非、陶磁歴史資料館建設が必要であるとの結論に達した。

今、何故に直方に資料館が必要であるのか？市民の皆さんと一緒に考えてみたい。そんな思いをこめて起稿した。

一、直方市にある文化財の現状

*直方市、県指定文化財については省略

有形文化財の中には直方市民などがいつでも見られるものと、ねむったままのものがある。前者は常時展示施設にある。後者は非公開で所蔵庫などにある。以下、具体的に述べてみたい。

(1) 施設名と展示品

- ①直方市石炭記念館（直方七〇一番地）――石炭関係、採炭機具、汽関車、他
- ②直方市立谷尾美術館（殿町十番三五号 旧奥野医院）――谷尾氏所蔵美術作品
- ③筑豊高校展示室（頓野四〇一九―一二 旧筑豊工業高校）――石炭、鉄鉱石、筑豊地区の炭住街（写真百余点）、他
- ④直方中央公民館二階（津田町七番二十号）――古高取、鷹取城関係

- ⑤アールスペース谷尾ギャラリー喫茶（古町十番二十号 旧福岡銀行）――古高取出土品、鷹取城瓦破片など
 - ⑥直方市体育館（直方六七四―二五）――炭鉱関係古文書
- ※市外の古高取収蔵場所については、「古高取通信No.4」を参照）



直方中央公民館二階

(2) 非公開の所蔵庫

- ①直方市福地社会会館（永満寺二四二七 福地小学校敷地内）――農具、民具など（五〇〇～一〇〇〇点）

- ②感田小学校（感田一一六〇番地）――農具、民具など 紫村一重氏所蔵品寄贈
- ③篠原酒店本屋と倉庫（殿町十番二九号）――谷尾氏の寄贈が殆ど（絵画一三〇〇点、陶器三〇〇点 季節ごとに展示している。）
- ④九州歴史資料館地下室（太宰府市石坂四―七一）――古高取・鷹取城関係考古遺物（土器など）
- ⑤福岡農業高校プレハブ倉庫（太宰府市佐野二五〇番地）――鉾山関係の書籍八〇箱、



篠原酒店本屋

鉾石二〇〇〇余点、測量器具など一〇〇余点、古高取陶器の陶片など四〇〇〇箱、その他

二、過去のとりくみ

*以下、項目だけを列挙する。

- (1) 昭和五十五年 歴史資料館（仮称）建設要望書を提出。

※直方郷土研究会が要望書を提出。詳細は、直方郷土研究会会報を参照。

- (2) 近年まで数回、市議会での質疑応答が行われた。

※詳細は、市議会議事録を参照。

- (3) 平成十七年 旧筑豊工業高校の爆発試験場を要望
- ※地光会が要望書を提出。

三、既存の施設再利用

- (1) 旧筑豊工業高校爆発試験場（頓野一五四―一二）
- (2) 元福智山ダム建設事務所（頓野の内ヶ磯公民館付近）
- (3) 直方市勤労青少年ホーム（感田三六〇―一四）
- (4) 篠原酒店（殿町十番二九号）
- (5) 直方市民会館（津田町七番二十号）



元福智山ダム建設事務所



旧筑豊工業高校 爆破試験場



直方市勤労青少年ホーム

四．問題点と今後の課題

＊以下、項目だけを列挙する。

- (1) 市政政難
- (2) 推進派リーダーと団体不在
- (3) 運動資金の捻出と街頭署名活動
- (4) 諸文化団体の結集
- (5) 国宝級文化財なし
- (6) 市民の参加、協力体制
- (7) その他

◎参考資料

「直方市は「高取焼」発祥の地であるとともに、豊かな自然環境に恵まれ、歴史ある静かで落ち着

いた町なみが残る、人と自然とが共生する健康で美しい文化都市です。

また、地域で伝承されてきた祭りや行事、伝統工芸などの無形の文化遺産などは、直方市固有の郷土文化であるとともに、貴重な財産であり、誇りであります。

これらの情報と、ホームページに「地域情報」として掲載し、積極的に情報発信することにより市のイメージアップを図ります。」

「向野敏明と市民との約束」より
(平成十九年一月発行)

過去が未来に勇気を贈る
「歴史発掘」の醍醐味

栗原 隆

古高取研究家の小山亘氏に親しくお話させて頂いたのは、初めてお会いした2008年7月の第1回学習会直後のことでした。立話しながら公民館を出て小山氏の車に積まれていた古陶器(内ヶ磯からの発掘品)や執筆中の「王の窠印」の論文を見せていただき、その熱い思いに胸をうたれたことが思い

出されます。今回、宅間・内ヶ磯発掘調査を手掛けられた副島氏と小山氏のデュオで「古高取基礎講座」の4回シリーズがあり、第2回から最終回まで参加させてもらいました。小山氏の研究は、変わらぬ熱意に落ち着きが加わって益々の充実ぶり。素人目にも画期的な予感の次の論文の仕上がり具合、そして何より真実に迫りつつある確信ゆえなのでしょう。また、博識な副島氏や熱心な聴講者たちの存在が小山氏の研究を援軍のように強く後押ししている姿は、「伝える会」の設立主旨を見事に具現化している感じがしました。



内ヶ磯窯で焼かれた織部好み(左:大徳利にくっついた向付け)

もともと私がこの会に参加して
みようと思ったのは（冒頭記載の
学習会に参加するきっかけになっ
たのは）、2008年4月に直方
歳時館で能間会長の個展を拝見し
た際、会長ご本人とお話する幸運
を得て、高取焼そのものの考え方
が劇的に変わりつつあること、そ
のエンジンが内ヶ磯窯発掘調査と
その継続研究であることを教えら
れ、そのあと館の外に出ては（今
はダム湖中の）内ヶ磯窯跡のある
鷹取山のあたりを指し示して頂き、
そんなに凄いことがこれほどに静
かな佇まいの地域に隠されていた
のかと感銘したからでした。

さて、今回のセミナーを通じて
強く印象に残ったことは、直方の
地に建設された内ヶ磯窯と神屋宗
湛と古田織部との未だ明らかにさ
れていない（おそらくは非常に深
い）関係に着実に光が当たりつつ
あるという喜びに似た期待感。叶
うことなら、科学的検証手法を最
大限に活用して（実はそれは既に
小山氏の方法論の中に脈々として
在る）、「真実」を歴史・政治・経済
・産業・文化が立体的に調和した
形で突きとめてほしい。逆にそう
いうアプローチでなければ、真実
は明らかにならないように思えま
す。あの時代、秀吉亡き後の圧倒

的な「徳川化」の流れの中で、神屋
宗湛や古田織部の思想は歴史の深
層に隠れるしかなかったはずで
から。

以下は私の妄想なのですが（科
学的検証を望んだ舌の根の乾かぬ
内の矛盾にご容赦）、もしかしたら
宗湛と織部の関係は明文として残
っているより遥かに太いものでは
なかったか・・・？ もしかした
ら内ヶ磯の技術は少なからぬ人材
とともに「織部の理想を（遺言の
ように）詰め込んだタイムカプセル
」として美濃から直方へ根こそ
ぎトランスポートされてきたので
はないか・・・？ 古田織部は武



古田 織部 像『原色茶道辞典』より

士として又茶人としてのプライド
を貫こうとし、宗湛はそれを心底
理解して織部の想いを産業や交易
の形で昇華させたのではないか・
・・・？ もしそうだとしたらそれ
は若き日に唐津から荒廃した博多
の街を客観的・立体的・歴史的に
観ていた宗湛にしかできない仕事
だったのではないか・・・？ い
いやや本当はこんな風に焦っては
いけないのです。小山ホームズの
熱く着実な「謎解き」を間近で体
験できるスリルに匹敵する喜びは
今の世の中そう多くはないはずで
すから。付いて行くに如（し）く
はなし。

黒田家と歪んだ茶碗

小山 亘

筑前福岡藩の国焼高取焼は茶陶
として名高い焼き物である。それ
を位置付けてくれたのは直方市に
ある内ヶ磯窯で焼かれた茶陶器群
である。そして筑前福岡藩の礎を
築いたのは黒田如水公、長政公で、
如水公は茶の湯の第一人者千利休
の教えによる利休流の茶の湯を子
孫が続けていくことを念じて、『
黒田家譜』の中に黒田家としての



歪んだ茶碗（織部好み、内ヶ磯窯出土品）直方市教育委員会所蔵

茶の湯に対する定書（さだめがき）
を遺している。

これからしても黒田家が如水の
代から茶の湯に深い関心を持つて
いたことがわかる。

福岡藩の御用窯内ヶ磯窯では意
識的に大きく歪めた茶碗が様々に
焼かれていた。このことは発掘調
査で明確になっているものである。
利休の愛弟子・古田織部の好みと
いわれている歪んだ茶碗使用につ
いては、当時伏見の如水邸で古田
織部が催した茶会で歪んだカタイ
ロ（掛け分け）の茶碗が使用され
ていたことを加藤唐九郎氏が著書

の中で紹介している。そして黒田領内の博多の町の商人で、古田織部の茶会で歪んだセトのひょうげた茶碗を見たことのある神屋宗湛は長政公の福岡城内で歪んだセト茶碗を使用して長政公と茶会を行っている。この茶会は内ヶ磯窯開窯より十年前の慶長九年二月八日であったことは、宗湛が遺した『宗湛茶湯日記』に記されていて明らかである。如水公が亡くなったのは同年の三月二十日であるため、いずれも内ヶ磯窯が造られる前に如水公、長政公が歪んだ茶碗で茶を楽しむでいたことがいえることになる。黒田家と歪んだ茶碗は、発掘だけでなく文書による記録からも所縁の深い関係であることがよくわかる。

要するに歪んだ茶碗は黒田家とは切り離せない茶碗である。ちなみに如水公自身が目にした可能性のある歪んだカタイロの茶碗としては永青文庫美術館所蔵の銘「瀬戸念八」がある。この茶碗は内ヶ磯窯で焼かれたものと見間違えるほどによく似ている。

(※「瀬戸念八」茶碗については次号で紹介したい。)

活動の記録

● 子供焼物教室

〈平成二十一年五月〜十二月〉

場所…直方東小学校、直方西小学校、直方南小学校、直方北小学校、中泉小学校、下境小学校、新入小学校、植木小学校、感田小学校、福地小学校、上頓野小学校



十月八日(木)感田小学校にて今年度最後の子供焼物教室を実施しました。6年生の73名は、授業に対する姿勢がとてよく活発でした。しっかり集中していました。作品作りも熱心に取り組み、どれもいい型のお抹茶茶碗が出来ていました。後は焼き上がりを待つだけです。ね。

永富 セツ子

● 高取焼基礎研修講座「第三回」

〈平成二十一年九月十九日(土)〉

場所…直方中央公館 三階

第三学習室

費用…無料(ただし、一般参加の方は、4回分の資料代 千円)

講義…「日本側の文書資料」

講師…副島邦弘氏

講義…「織部好みと遠州好みの違い」

講師…小山亘氏

実際の出土品等も見ながら研修が進められ、反響も大きなものになってきていると感じました。ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。

副島 邦弘



● 高取焼基礎研修講座「第四回」

〈平成二十一年十月十七日(土)〉

場所…直方中央公民館 三階

第三学習室

費用…無料(ただし、一般参加の方は、4回分の資料代 千円)

講義…「高取焼の系譜」

講師…副島邦弘氏

講義…「内ヶ磯窯の出品と京三条『せともの町』」

講師…小山亘氏



毎回、多くの方にご参加頂きありがとうございます。皆様から頂いたご意見・ご要望を参考に、また来年度も、古高取のことを知っていただけるような講座を考えたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

副島 邦弘

●地域対象焼物教室

天の会（荻迫料理学校OBの会）

〈平成二十一年十月二十四日（土）〉
場所…荻迫料理学校
参加者…12名

今回で第2回目の地域での焼物教室でしたが中高年の方々のグループで熱心に取り組まれ、とても立派な作品が出来上がっていました。また終了後はお食事をし、楽しい一時を過ごしました。後日、お茶会を開催したいとのことでした。

永富 セツ子



●子供焼物教室

「マイ茶碗でお茶会」

〈平成二十一年十月二十五日（日）〉
場所…直方北小学校



「マイ茶碗でお抹茶をいただきます」という企画のお茶会をお手伝いするようになって2年、各小学校へ行かせていただき子供達の笑顔をみるたびに協力出来る喜びを感じています。お抹茶を点てお菓子を頂きお茶の飲み方を説明する時、子供達は真剣な表情で聞き入っています。こちらがお点前を披露すると自然と静寂に包まれます。この静寂が感動だと大人になつて気づく時がくると思います。日本の伝統文化に接する機会を多く作っていく事が子供達の情操教育に役立つものと思います。

田中 紀子
吉田 佳代子

●地域対象焼物教室

「里山焼物教室」

〈平成二十一年十一月一日（土）〉
場所…上頓野の里山
参加者…12名



大雨の中、福智山の麓の里山でのお茶わん作りは、高取焼の陶工になつたような気分でした。そして山奥の紅葉の美しい風景の中で、釜で御飯を炊いたり、炭火で焼きそばや焼きいもを作りカレーや里いも煮なども料理しスタッフと一緒にわいわい、がやがや楽しく食事しました。また里山での焼物教室を続けて欲しいという要望がありました。

永富 セツ子

●第二回古高取探訪

「紅葉ウォーキング」

〈平成二十一年十一月二十二日（土）〉
場所…宅間窯跡く内ヶ磯窯跡
参加者…53名

曇り空の天気の中85才の女性・3才の孫の手を引く若いお婆ちゃん等老若男女で晩秋の福智山麓花公園を出発。宅間窯跡く母里太兵衛屋敷跡く明元寺く内ヶ磯窯跡をめぐるコースを歩きました。

もみじ、はぜ等の紅葉は色づき始める感じでしたが、今年は柿の当たり年、一村がそっくり柿の色です。いこいの村を通り過ぎた頃より小雨が降り始め、足を早めて内ヶ磯窯跡は断念し、お昼前に内ヶ磯公民館に到着。荻迫さんの中



心とした女性スタッフが前日より準備した温かい団子汁・芋の天ぷら・おにぎり等が用意され大好評でした。

自然と人間、過去と現代、そして人と人の融合の中で感じる共感性。たとえ初めて出会う人であっても興味や感心を共にし、現地に立って始めて由来を聞いたり、良い意味で予期せぬ事や同じ苦労を共にしたり、そして行き先で待っている人がいて同じ釜のものをいただく状況に接すると、仲間・同行意識が募ってまいります。

古高取を伝える会を推進・発展する等に有意義な事柄かと思いました。

それにしてもダムの湖畔で一杯飲みたかったです。

鷹取 宗恵

●高取焼基礎研修講座 「総括研修」

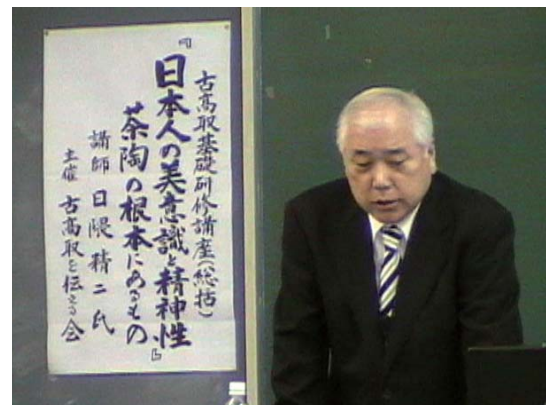
〈平成二十一年十二月五日(土)〉

場所…直方中央公民館 三階

第三学習室

費用…無料(ただし、一般参加の方は、4回分の資料代 千円)
講義…「日本人の美意識と精神性」茶陶の根本にあるもの」
講師…日隈精二氏

前4回までの副島氏、小山氏に



よる講義を受け、最終回また基礎講座として何処に論点を置くか考えたとき「古高取」に限定せずに茶陶という範疇で内ヶ磯窯を捉えてみようと考えました。

言語がその民族の感性を最も象徴的に表すものであるように、日常使用する道具の形や、色も同様にその民族の感性の表現の場になっています。

それでは個々の造形物を創り出す感性は何に依拠しているのか、それは広義の意での宗教心とその時代の経済だと思っています。

日本人の宗教心は森羅万象に魂が宿るというアニミズム、所謂「多神教」が根底に存在し、その結果

茶碗の口造りや高台などの微妙な違いを鑑賞する能力を生み出しています。

講義の中で採り上げた「安国寺肩衝」をはじめ多くの茶入や茶碗、釜などに対し単なる物としてだけでなく人間の命以上の、また大名にとつて一国に相当する価値を見出しています。

「古高取」の研究も、日本人が長い間培ってきた宗教心とその時代の経済を踏まえないものは単なる上滑りの理解に終わってしまうでしょう。

日隈 精二

なんでも掲示板

【地域対象焼物教室に参加して】

●ノミの夫婦茶碗

武谷 由美

結婚して二十七年目初めて夫と肩寄せ合つてもの作りを体験する事になりました。

実は茶碗作り三回目の私、少し余裕。片や茶碗作り初心者の方。

茶碗作りが始まって、ふと隣の夫の茶碗を見ると始まって間もないのにすでに歪んでいるし、全面に細かいヒビ割れが…。



手を貸そうとすると、ムキになり断る夫。が、自力で立て直そうとするも益々育ち過ぎたカボチャのようにお尻でつかちな型に…。最終的に、古高取を伝える会の方々の力を借りて、どうにかそれなりに仕上げる事が出来ました。そして、焼き上がりの姿は、堂々と大きな私の器と楚々とした風情の夫の器という具合になりました。

茶碗はまだ手元にありませんが、そのノミの夫婦茶碗で、互いにお茶を飲む日を今は、とても楽しみにしています。

●マイ茶碗の魅力にみせられて

岩井 ケイ子

焼きものの教室へ私は三回出席しました。中央公民館で手ひねりで抹茶茶碗、イオン直方でお皿二枚、料理学園で抹茶茶碗を作りました。先生方の手に取るようなやさしい御指導で時間を忘れて楽しんで作りました。今度はマイ御飯茶碗、マイ湯呑を作りたいです。

年配の方に焼きものの教室の参加をよびかけると「今更焼きものはいらない食器棚に飾っておくだけ」と言われますが、手づくりのマイ茶碗のぬくもりは格別で私の心をやさしく癒してくれます。日常的に使う消耗品の御飯茶碗や湯呑みにも挑戦してみたいです。

●逸品のマイ茶碗が出来ました

京極 光江

問われるままに感じたことを書いてみようと思いましたが、歴史にも、茶事にも、教養が乏しくて戸惑うばかりです。高取焼き開窯四百年祭記念にと抹茶茶碗を作ることになりました。初めて土に触れる。軟らかくてしまってる感じの土が好きになり、早速my茶碗作りにかかりました。少し興奮気

味でした。轆轤と土に触れる、指先手の平、五感の集中力を感じるのに思う型にならない。何とか茶碗の型に仕上げる。後は色付け、窯から出て来る。my茶碗は世界に一つだけ夢が膨らんで、とても嬉しくなりました。ずっしり重い茶碗でしたが、色付けもよく、初めての作品だけに、唯一の自作品、感動でした。諸先生方の御指導に敬服と感謝を申し上げます。最初の逸品を御先祖様にと献上しました。



直方市内で採集した原土を粘土にして、マイ茶碗が作られました。

●小さなロクロ

片手 正春

ここ直方に居して十三年。長崎県川棚町の生まれで「波佐見焼」の隣町です。ふる里のDNAでしようか？陶土の匂いが今回の教室に誘ってくれたのでしょうか。「古高取焼き物教室」です。初めての経験でした。

当日十一月一日は朝からすごい雨で道路は滝のような流れ、その中で準備してくださったスタッフの方々のご苦勞を癒してくれるように小降りとなり、始まりました。

講義のあといざ実践。テーマは「茶碗」。丸くても四角でも思い思いにやってくださいとの先生の声でかわいい小さなロクロでスタート。なかなかむつかしい、自分の不器用さが禍し指先が土になじまない。なんとか四角の茶碗になり、どうにか終了した。教室のあとの昼食、カレーに豚汁をおいしく頂いて解散。

天気も晴れ上がり楽しい教室でした。

後日出来上がりをお届けいただきマイ茶碗にびっくりです。ありがとうございました。

【マイ茶碗でお茶会に参加して】

お茶会に参加して

直方北小学校 父兄 西野 清子



私は今回のお茶会に参加させて頂き、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

普段あまり見ることの無いお点前に興味津々の子ども達に交じって日本ならではの趣を感じ、照れながらお作法を真似る様子や、嬉しそうに自分で作ったお茶碗でお茶をたてる姿に、心が暖かくなりました。

これも「古高取を伝える会」の皆さんがお茶碗作りから関わって下さり、大切に焼き上げて頂いたからだと、地域の皆さんに育てても

らっている環境をとてもありがたく感じました。

また、小山さんに四百年前の高取のお茶碗を見せて頂き、時間を越えると言う不思議さと共に、こんなに歴史ある物が自分達の住む所に残っている事をたくさんの子ども達に温かい手で伝えて下さる事で、この土地に愛着を持ち、ふるさとを支える力へとつないで行ってくれるといいなと思いました。本当にありがとうございます。

【第二回古高取探訪、紅葉ウォーキングに参加して】

● 街の歴史と文化にふれる

田島 初美

遠出する予定だったが体調不良によりキャンセル。近場のウォーキングくらいなら大丈夫かなという事で急遽参加することにしたので、コースをまったく知らない曇り空、雨が降らなければいいけどと願いながらウインドブレーカーを着て出かけた。集合場所にはたくさんの人たちが集まっていた。いつも水汲みに行く宅間の場所へ歩いていく。車で走るのとは違う景色が見えるものだ。坂道も歩くと意外にハードである。

いつも通り過ぎていた場所に、永満寺宅間窯跡があった。池に沈んでいるらしい。

折り返して車の通れない小道を歩く。おしゃべりをしながら楽しく歩くのも楽しい。明元寺へ。

お寺の天井絵と紅葉のお庭を拝見。ご住職の地元の歴史を交えたお話も面白い。直方に住んでいるながら知らないことはたくさんある。自分の住んでいる町の歴史と文化にふれることはこういう機会がないとなかなかないものだ。

途中、雨が降り出して内ヶ磯窯跡までは行けなかったことが残念。お昼に食べた団子汁が冷えた身体を温めてとてもおいしかった。ご馳走様でした。



母里太兵衛居城付近(直方市永満寺)

次回もぜひ参加して小山氏のお話を聞きながらダムに沈んでいる内ヶ磯窯跡まで行ってみよう。

● てるてる坊主さんありがとう

渡部 紀子

木の葉が色づき始めた十一月二十二日古高取窯ゆかりの地を訪ねる紅葉ウォーキングに参加しました。

前日からの天気予報は雨。数十年前ぶりかでてるてる坊主を作り、軒先に吊るし、晴天を願いました。そして当日、福智山ろく花公園を出発してから1時間ほどは曇りながらも、我がてるてる坊主は効果を発揮してくれたようです。

直方に住んで二十数年になりますが、高取焼のことについては全くと言っていいほど知りませんでした。

今回のウォーキングで歩いた道は、中学生時代に遠足で歩いた場所もあり、その頃に高取焼の歴史を知っていたら、なお楽しかったのかもしれない。

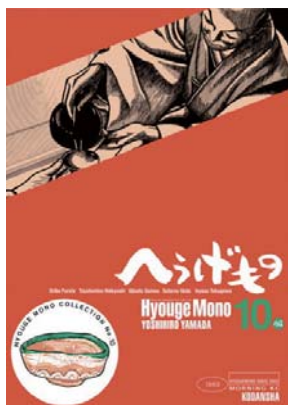
途中降り出した雨のため、内ヶ磯ダムでの昼食は叶いませんでしたが、ボランティアの皆さんが作ってくれた団子汁、おにぎり、お芋の天ぷらのおかげで、心も体もほ

っこり温まり、雨が降る帰路も楽しく歩くことが出来ました。スタッフの皆さんありがとうございました。次回のウォーキングも是非参加したいと思います。



● 茶道具続出の「へうげもの」第十巻が刊行(山田芳裕著書)

平成二十二年一月二十二日(金)講談社から単行本「へうげもの」第十巻が発売になりました。



●須崎町公園ステージにて呈茶

平成二十一年十二月五日(土)に直方市須崎町公園で行われた「須崎町公園ステージ」にて古高取のパネル展示と呈茶(鞍手高校茶道部)が催されました。当日は雨天のためテントの中で、少し変わった思考で楽しませて頂きました。



●二〇一〇年のお年玉

小山 亘

二〇一四年、開窯四百年を迎える古高取内ヶ磯窯では茶人古田織部の好み焼が焼かれていたことが分かっている。

昨年十二月二十三日に「古田織部の子孫を豊後竹田で見つけたよ

！」という情報を写真家藤田洋三氏から頂いた。その話を妻にする」と古田織部と関係があるかどうかは分からないけれど、古田姓は地元永満寺に結構おんなさる。」と衝撃の一言！

正月に、高取焼とは切っても切れない明元寺住職・鷹取宗恵氏にこれまでのことをお話しすると「村の古老の話によると、古田姓は如水公・長政公に同道してこの村(永満寺)の庄屋となった家系ではないか。」とのこと。

高取焼の指導者として名高い小堀遠州の血縁者が如水・長政公筑前入国の二年後、慶長七年(一六〇二)に入国している記録があることからみて、古田織部の血縁者が同じように入国していたとしても不思議はない。

これが実証できたら、これからの展開が増々楽しみである。

〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

織部好みの沓形茶碗(内ヶ磯窯製)



直方市教育委員会蔵



個人所蔵

〈編集後記〉

古高取を伝える会の活動も着々と進みはじめたこと、又、増えつつある参加者からのご意見やご投稿等に感謝いたします。

今年も益々この輪が広がることを願い発信して参りたいので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

新しい仲間の入会もお待ちしております。

「古高取通信」会報・NO5

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十二年一月三十一日

〈現在の会員数〉

正会員 一〇一名

賛助会員 二十六名(三十九口)

団体 三団体(三口)

〈事務局〉

〒八二二-〇〇二六

福岡県直方市津田町七十四

TEL 〇九四九(二三)一一三二